

平成 30 年 11 月 13 日

ICSICT2018 参加報告書

群馬大学院・理工学府・理工学専攻
電子情報・数理教育プログラム
小林研究室・修士課程前期 1 年 白 雪妍



会議名

International Conference on Solid-State and Integrated Circuit Technology 2018

開催地

Huangdao Sheraton Hotel, Qingdao, China

日程

2018 年 10 月 28 日～11 月 3 日

1. 中国青島について

青島市は、中国山東省に位置する主要な港湾都市である。副省級市・計画単列市、国家歴史文化名城に指定されている。中国の海洋産業の中心都市であり、東部沿岸の重要な経済と文化の中心であり、近代的な製造業やハイテク産業基地も立地する。

ケッペンの気候区分によると、温帯夏雨気候(Cwa)に属する。青島は海に面しているため風が強く、気候は夏は涼しいが、冬は厳しい寒さである。夏の平均気温は摂氏 23.8 度(7月)で、冬の平均気温は摂氏 -0.7 度(1月)となる。梅雨はないが、7月と8月は雨が多い。



2. 参加学会について

International Conference on Solid-state and Integrated Circuit Technology 2018 は米国電気学会(IEEE)はのハード技術や集積回路技術について発表する国際会議である。なお今回における一般論文投稿件数は 475 件、採択数 355 件、採択率 75%であった。



3. 企業訪問

1) ハイアール本社

ハイアールは中国山東省青島市に本社がある中国最大の一つ家電メーカーである。主な製品は冷蔵庫、冷凍庫、エアコン、洗濯機で、中国国内でトップシェアを維持している。

ハイアールの首席執行官(CEO)である張瑞敏(チャンルエミン)は1949年生まれで、中国で最も有名な経営者の1人である。

ハイアールの前身である青島市日用電器廠は、1980年代前半に洗濯機の製造・販売を行っていたが、デザインが古く、品質が不安定であったため、83年には累積赤字が147万元に上っていた。このため、84年に当時の直属上部機関の青島市家電公司是、経営再建のために家電公司副經理の張瑞敏を工場長兼党支部書記に任命した。張は当時35才であった。

1985年、張は市場競争力のない洗濯機生産を中止し、当時市場拡大が見込まれた冷蔵庫生産に切り替えることを決断した。張は欧州視察に出向き、冷蔵庫生産や品質管理を学んだ後、当時最高の技術水準を誇る西ドイツのリープヘルから冷蔵庫の生産技術供与を受ける提携を行った。

青島市日用電器廠が発売した「琴島利渤海爾」(チンタオーリープヘル)というブランドの冷蔵庫の売り上げは好調で、同社の年間売上高は、1984年の348万元から88年には2億6000万元に急増し、累積赤字が解消した。この頃、青島市日用電器廠から青島市冷蔵庫總廠へ社名変更を行った。

1991年には青島市冷蔵庫總廠(当時、年間売上高11億元)は青島冷凍庫總廠、青島空

調機廠と合併し、青島市最大の家電総合メーカー「琴島海爾集團」が設立された。1992年にはリープヘルとの技術提携期間が終了し、琴島海爾集團の社名は「海爾集團」に変更された。

1995年にはハイアールは青島紅星電機廠を吸収合併した。この合併により、海爾集團は大規模な洗濯機生産ラインを手に入れ、冷蔵庫、冷凍庫、エアコン、洗濯機という4本柱の企業となった。95年の売上高は43億元となり、中国トップの家電メーカーとなった。

その後、1997年には、ハイアールは家電メーカー6社を傘下に収め、連結売上高は108億元となり、中国の家電メーカーとしては初めての100億元メーカーになった。

1998年には中国政府はハイアールなど6社を「特大型企業」に指定し、世界のトップ500社入りを目指すように命じた。特大型企業には、資金や土地の提供、輸出貿易権の付与など優遇策を与えられた。

1990年代の合併・買収によってハイアールの事業は多様化し、ハイアールは現在、冷蔵庫、冷凍庫、洗濯機、エアコンという4大主力製品に加え、電子レンジ、食器洗浄機、カラーテレビ、パソコン、携帯電話、携帯情報端末（PDA）、システムキッチン、製薬、工業ロボット、コンピュータソフトウェアなどの分野も手がける総合家電メーカーとなっている。



2) 青島ビール社

青島ビール社は、1903年に中国山東省青島で製造が始まった、ビールのブランドである。中国で最も古いビールの一つである。



4. 青島市の観光

青島市の水族館、ショッピングセンター、海浜公園など多様な場所を観光した。



5. 謝辞

今回このような見学や観光の機会を与えていただいた小林春夫先生、旅のご支援いただきました石川信宣先生、ともに参加させていただきました桑名杏奈先生、松田順一先生、小堀康功先生、尹友先生、学生の皆さんに深く感謝申し上げます。



